

# 栗原市教育研究センター通信

第3号 平成28年2月発行

こんにちは。栗原市教育研究センターです。

今年度から3年保育がスタートした築館幼稚園。前年度と比較して、どんな違いが見られるのでしょうか。

広い駐車場を抜けて園庭に入ると新しい園舎が迎えてくれます。木材がふんだんに使われている建物は、天井が高く、明るい光が部屋いっぱいに降り注ぎます。ゆとりのある教室のつくりになっていることに加えて、学年ごとに集会のできるプレイルームや図書室などがひととき目をひきました。「人数が多い割に大きなけがをする園児が少ないのは施設環境の良さと言えるかもしれません。」と主任の佐藤美紀先生。

「園児数が増え苦労することも多いのですが、3年保育になったことで、発達段階を踏まえた教育課程を編成して、その年齢にふさわしい指導の手立てが取れるようになったことや、教員数も増えて、それぞれの持ち味を生かした教育ができること、また、学年共通の制作活動に取り組むことができるようになったことが、新しい築館幼稚園になってよかったことです。」と笑顔でお話しくれました。



築館幼稚園では、3年保育になったことを機会に、異年齢児の関わりから幼児の育ちを探る研究を進め

てきたそうです。研究当初は3歳児から5歳児まで全体での異年齢交流から取り組み始めたそうですが、集合等に時間がかかり、なかなか主となる活動に入れられない様子が見られたそうです。そこで、交流クラスを2クラスずつ固定し、ペア学級の園児を1対1のペアとして活動する方法に切り替えたところ、活動の時間も確保でき、楽しそうな園児の姿が多く見られるようになったそうです。また、異年齢児と一緒に乗るスクールバスでの登降園では、5歳児が3歳児の荷物を持ってあげるなど、自然と手を貸すことも増えているそうです。「ゆ

うびんやさんごっこ」の活動中、スクールバスで仲が良くなった5歳児から手紙が届いた3歳児が大喜びしたというエピソードもうかがい、意図的なものだけではなく、自然発生的な異年齢交流からも、思いやりの心や年長児へのあこがれが、少しずつ育っていることをうれしく思いました。

このように、築館幼稚園では、3年間の見通しをもった指導を行う幼稚園づくりに意欲的に取り組んでいる様子を見ることができました。

来年度から、全ての市立幼稚園で3年保育が実施されます。先生方には大規模化による戸惑いもあるかもしれませんが、ある程度の園児数があることで、同年齢での切磋琢磨が生まれやすくなりますし、異年齢交流でも刺激を受けたり、与えたりする場面を増やすことができます。

来年度、教育研究センターでは、学びの土台づくりに向けた研修会について、さらなる充実を図って参りますので、より多くの先生方に受講していただければと思います。

〈特任教授 菅原久子・千葉文彦〉

## 発行責任者

栗原市教育研究センター 所長 鈴木俊  
栗原市金成沢辺西大寺1-5  
TEL/FAX 42-1157  
教育相談専用電話 42-1230

